

弘前大学医学部附属病院で診療を受けられた皆様へ

研究機関名： 弘前大学大学院医学研究科

脳神経外科学講座

研究責任者： 梶 友紘

当院では患者さんの試料・情報を利用させていただき、下記の臨床研究を弘前大学大学院医学研究科倫理委員会の承認ならびに研究機関の長の許可のもと、倫理指針および法令を遵守して実施します。

本研究への協力を望まれない患者さんは、下記連絡先までお申し出くださいますようお願いいたします。

臨床研究名称 当院で急性期脳梗塞に対して機械的血栓回収療法を施行したフレイル症例の検討

研究の目的

フレイルとは加齢に伴う全般的な生理機能低下によりあらゆるストレスに対する脆弱性が増し、要介護状態となるリスクが高まった状態を指します。高齢化社会においてフレイルは健康上の新たなリスクと考えられています。また、脳卒中の転帰についてフレイルが影響を及ぼすことが知られていますが、報告はまだ少ない状況です。本研究の目的は機械的血栓回収療法を行ったフレイル症例について検討し理解を深めることです。

研究実施期間 実施許可日 ～ 2026 年 3 月 31 日

対象となる方 2024 年 4 月 1 日～2025 年 5 月 31 日までの間、附属病院脳神経外科を受診し、急性期脳主幹動脈閉塞と診断され、機械的血栓回収療法を受けられた方

利用させていただきたい試料・情報について

当院のカルテに記録されている情報のうち、年齢、性別、既往歴、神経学的所見、National Institutes of Health Stroke Scale: NIHSS、Diffusion Weighted Imaging-Alberta Stroke Program Early CT Score: DWI-ASPECTS、閉塞血管、合併症の有無、modified Frail Index: mFI、術後 3 ヶ月以降の modified Rankin Scale: mRS(転帰)、手術内容などについて、標記研究のために利用します。

NIHSS は脳卒中の神経症状の重症度を評価するための国際的に標準化された評価スケールです。DWI-ASPECTS は脳梗塞の超急性期における早期の梗塞巣を評価するための指標です。mRS は脳卒中などの神経疾患によって生じる運動機能の障害の程度を評価するためのスケールです。

外部への試料・情報の提供

収集した情報を外部へ提供する予定はありません。

本研究課題について、より詳細な内容をお知りになりたい場合は下記へご連絡ください。患者さん／その代理人の方から、試料・情報の利用停止を求める申し出があった場合は、当

該患者さんの試料・情報については対象から除外します。ただし、連絡いただいた時点で既に研究成果公表済の場合は、該当者のデータのみを削除する等の対応は出来かねますので、ご了承ください。

本件連絡先	脳神経外科・梶友紘 電話番号(内線)4790/mail: t2kaji@hirosaki-u.ac.jp
--------------	--